

IV 経済好循環とくしまの創造

1 経済加速・とくしまづくり③

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

もつかる農林水産業

- ◆ 生産と消費の距離が近いという本県の特性を生かし、生鮮食料供給地としての責務を果たすことにより、豊かで充実した食料を提供するとともに、農林水産業は本県の経済を支える基幹産業として発展しています。
- ◆ 高い生産技術力と消費者ニーズを捉えた販売戦略などにより、「とくしまブランド」がより一層充実するとともに、輸出や6次産業化の推進により、県産農林水産物や加工品の需要が国内外に広がっています。
- ◆ 意欲と経営マインドを持つ多様な担い手により魅力ある農林水産業経営が行われ、農山漁村に活気があふれています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 農産物の増産及び高付加価値化に向け、農林水産総合技術支援センターを核として、大学や民間事業者との連携により、ブランド産地の強化とともに、新たな品種や技術の開発・実用化を推進します。また、県内各地で「ブランド産地化」を促進するため、農地の有効利用や耕作放棄地の解消、農業基盤・生産施設の整備を推進します。
- ◎ 県産材の増産に向け、本県地形に適した「主伐生産システム」の構築、高能率団地の設定、先進林業機械の導入及び効率的な路網の整備を進めるとともに、高校生を対象にした林業教育の実施や新規就業希望者に対する実践技術の早期習得など、新たな担い手の確保・育成を図ります。
- ◎ 水産業の活性化に向け、「漁場環境」や「漁業種類」などの海域特性に応じた、エリアごとの振興策を策定し、新たな水産ブランドの創出や段階に応じたスキル習得の支援による人材育成に取り組み、水産業の「創生」を図ります。
- ◎ 県産農林水産物や食品の需要拡大に向け、輸出国・輸出品目の重点化、輸出品目と輸出量の拡大や「輸出型産地形成」など、輸出の拡大を推進するとともに、「徳島大学・生物資源産業学部（仮称）」と連携し、6次産業化人材の育成、地場産業との連携による6次産業化ビジネスモデルの創出を支援します。
- ◎ 農林水産業の担い手の育成・確保のため、インターンシップの充実等による若者のキャリアアップシステムの構築、女性や経験豊かな高齢者の活躍や経営安定化への支援などに取り組み、新規就業者の確保と就業後の定着を図ります。

IV 経済好循環とくしまの創造

1 経済加速・とくしまづくり④

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

徳島ならではの「経済成長」の実現

- ◆ 小規模事業者が、全国屈指の「ブロードバンド環境」をはじめとした「類い希な地域資源」と「斬新な発想」により、魅力的なビジネスを創出し、本県経済の成長発展を加速させるとともに、地域コミュニティの中で重要な役割を担い、活気あふれる豊かな地域社会を実現しています。
- ◆ 徳島ならではの地域資源を活用した本県ものづくり企業による研究開発、新商品開発が促進されるとともに、生産性や付加価値が大きく向上し、「地域ブランド」が形成され、国内に限らず、海外市場にも販路が拡大することにより、県内の製造品出荷額が大きく増加しています。
- ◆ 「MADE IN TOKUSHIMA」を日常生活の中に取り入れる人が増え、徳島県産品の認知度が高まっており、「阿波藍による藍染め」の普及による“ジャパン・ブルー”の魅力向上に加え、「阿波しじら織」、「阿波和紙」、「大谷焼」をはじめとする伝統工芸品の需要も拡大するなど、地域産業が活性化しています。
- ◆ 多くの県内企業で、「被害軽減」と「早期の事業再開」、さらには「地域の防災・減災力の強化」につながる実効性の高い企業BCPが策定され、企業が安心して安全に操業できる環境が整うことにより、「災害に強い徳島企業ブランド」が確立し、取引先や市場からの評価が高まっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「とくしま経済飛躍ファンド」を活用し、徳島ならではの地域資源を活用した研究開発、新製品開発、農工商連携など、中小企業の意欲的な取組みを支援し、創造的な事業活動を促進します。
- ◎ 経営資源を活かした新たな事業活動を図るため、「強い組織づくり」のノウハウを総合的かつ身近に学べる研修プログラムを提供することにより、企業の人財育成を支援するとともに、県内中小企業の経営の安定化を図り、積極的な事業展開が可能となるよう資金繰りの円滑化を図ります。
- ◎ 県内企業への優先発注に努め、受注機会の確保等を推進することにより、地域産業の発展・拡大を支援します。
- ◎ 「ものづくり企業」の販路開拓を図るため、ビジネスマッチングや販路情報の収集・提供などに加え、広域や海外市場における展示商談会への出展支援や情報発信に取り組むとともに、本県が誇る伝統工芸品についても、他業種とのコラボレーションやICTを利用した情報発信により、新たな販路の開拓を支援します。
- ◎ 実効性の高い企業BCP策定や、策定後の見直し改善を推進するため、経営者の意識改革を促す啓発活動をはじめ、より実践的な研修や業種業態に応じた専門家派遣による指導など、積極的な支援を行うとともに、企業が安定的に操業できる環境づくりに取り組みます。

IV 経済好循環とくしまの創造

2 イノベーション立県・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

さらに羽ばたく時代を先取る新たな産業

- ◆ 照明・ディスプレイ分野でLEDの普及が一層拡大する中、医療・農業等様々な分野において新用途開発が進展し、LED集積企業の海外市場への事業展開が進むなど、ものづくり産業のみならず他産業にも大きな波及効果をもたらし、本県の基幹産業として地域経済を牽引しています。
- ◆ 本県の地域資源を活かしたロボットテクノロジーの実用化により、介護・農業・防災分野など様々な場面でロボット技術を効果的に活用し、社会的課題の解決が図られるとともに、ロボット市場への新規参入が進展しています。
- ◆ 徳島に世界的な「糖尿病研究開発クラスター」が形成され、“徳島発”の健康・医療関連産業が創出されるとともに、世界レベルで社会問題化する糖尿病に対する課題解決モデルが構築されています。
- ◆ アグリベンチャーの創出や、新たな商品の開発・生産システムの導入、農工商連携など地域の多様な事業者によるアグリビジネスの促進により、6次産業化が飛躍的に進展しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 進化する「LEDバレイ構想」に基づき、産学官連携により、照明以外の分野におけるLEDの積極的な技術開発を促進し、異業種連携や海外市場への事業展開を推進し、「LEDと言えば徳島！」の知名度向上を図ります。
- ◎ 「リチウムイオン電池」や「CFRP(炭素繊維強化プラスチック)」といった本県の強みであるものづくり技術を活かし、産学官連携によるロボット技術開発を進め、本県ものづくり産業の高度化を支援します。
- ◎ 高等教育機関や（公財）とくしま産業振興機構などの関係機関と連携して、人材育成、技術力の向上、生産性向上に向けた総合的な支援を行います。
- ◎ 産学金官が連携した先進的な糖尿病研究開発と成果の事業化を促進するとともに、健康・医療関連産業の創出・発展に向けたモデル事業を推進します。
- ◎ ものづくり企業の有する技術シーズと農業現場のニーズとのマッチングによる農工商連携の促進に向け、情報・マッチング・モデル実証など「総合的にサポートする仕組み」を構築することにより、新たなビジネスの創出を促進します。
- ◎ 6次産業化の推進に向け、産学金官が連携し、商品開発、販路開拓の支援及び経営感覚に優れた人材の育成を推進します。
- ◎ 科学技術の活用による県民生活の質の向上を目指すため、関係機関との連携により、科学技術人材の育成や戦略的推進分野における取組みを推進するなど、本県の科学技術の振興を図ります。

IV 経済好循環とくしまの創造

2 イノベーション立県・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

■ 新たな「成長モデル」の創出

- ◆ 県内市町村において、「バイオマス活用推進計画（新バイオマスタウン構想）」に基づき、各種バイオマス資源が有効に活用され、環境関連技術を活かした地域づくりが進んでいます。

- ◆ クリエイティブな力で絶えず創造と変革を起こしており、最先端のデジタルコンテンツ・デジタルアートの発信地として広く知られ、業界をリードする多くのクリエイティブ関連企業やクリエイターが集まるなど、県民誰もが「かっこいい」と誇れる県となっています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 本県の特徴を活かし、未利用木質資源などバイオマスの生産・利用を推進し、環境関連技術を活かした地域づくりに取り組みます。

- ◎ 産学官が連携した人材育成、ものづくり企業とクリエイティブな力との融合や、県外企業の誘致、創業等を推進することにより、国内外からクリエイティブ関連企業やクリエイターの集積を積極的に図るとともに、企業、クリエイターの連携による「LEDアート」創出といった新事業展開や、地域をフィールドとした創作活動など、クリエイターと地域の連携による新たな地域創生に向けた取組みを進めます。

IV 経済好循環とくしまの創造

3 いきいきしごと・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

魅力ある雇用の創出と働きやすい職場づくり

- ◆ 4K・8Kの高精細な映像技術を活用した、放送、医療、教育等に関連したサテライトオフィス等の事業所開設や本社機能の移転が進み、世界に先駆けた4K・8Kサービスが実現し、雇用の場が創出され、若者が夢を持てる地域づくりが進んでいます。
- ◆ 大都市圏等からの本社機能の移転により多様な就業の機会が創出されるとともに、国内だけでなく、外資系企業の立地が進み、「グリーンイノベーション」、「ライフイノベーション」による新たな雇用の創出により、過疎化の解消が図られ、地域経済が活性化しています。
- ◆ スマートシティ型企业誘致の促進により、南海トラフ巨大地震の影響も心配ない、災害に強く、かつ環境にやさしい企業立地が進んでいます。
- ◆ 男女を問わず就労や技能習得の機会が確保され、すべての労働者が自分にとって仕事と生活の調和がとれた安定的な働き方ができる社会が実現しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 全国屈指の光ブロードバンド環境やオーダーメイド型の補助制度を武器に、サテライトオフィス等の誘致を積極的に推進することにより、4K・8K関連産業やデジタルコンテンツ産業など情報通信関連産業の集積を図ります。
- ◎ 地方創生の動きを加速させるため、本社機能の誘致に取り組むとともに、「環境・エネルギー」、「医療・介護・健康」分野などの成長産業における企業誘致を、国内外を問わず、重点的に推進します。
- ◎ スマートシティ型企业誘致のための環境整備を促進します。
- ◎ 職業訓練施設などにおいて、ドイツにおける「マイスター制度」のエッセンスを取り入れた実践的な職業訓練を、企業から講師を招くなど、現場のニーズに応えるべく創意工夫を凝らしながら実施することにより、「技能」と「誇り」を身につけた産業人材の育成を図ります。
- ◎ 青少年が自分の進路や職業を選択するにあたり、職業体験やインターンシップを推進するとともに、就業等に関する気軽な相談や刺激を受けることができる若手の企業家や社会人との交流の場を提供することにより、青少年の社会的・職業的自立を促します。
- ◎ 若年者やUターン希望者等に対する相談体制充実など、県内で就職しやすい環境を整備します。
- ◎ 今後も要介護高齢者等の増加が見込まれることから、高齢者のニーズに的確に対応し、質の高い介護サービス等を提供するため介護職員等の雇用促進を図るとともに、介護離職の防止など、介護者の仕事継続と介護支援の両立に向けた取組みを推進します。
- ◎ 障がい者の職業的自立を支援するため、事業主をはじめ県民への意識啓発や、職業能力開発の場を確保します。（再掲）
- ◎ 女性が能力を十分に発揮でき、男女ともに働きやすい職場づくりを推進するため、企業等に対する、仕事と家庭の両立支援に関する情報提供や普及活動の充実に取り組むとともに、働く女性の活躍推進に向け、「キャリアアップの支援」、「ワーク・ライフ・バランスの推進」及び「多様な働き方の推進」を3本柱とした施策の充実を図ります。

IV 経済好循環とくしまの創造

4 挑戦するブランド・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

世界にひろがる「とくしまブランド」

- ◆ 本県が、「日本の台所」として成長を遂げ、オール徳島の生産販売体制で競争力の強化が進んでいます。また、安全・安心で豊かな「徳島の食・食文化」を通じて、その魅力が広く国内外に発信され、世界に通じる「とくしまブランド」の育成が進んでいます。
- ◆ 新技術の開発・普及や生産基盤の整備により、地球温暖化への対応や作業労力の軽減が図られ、県内各地で「ブランド産地化」が進展しています。県民は「とくしまブランド」の良さを理解し、その魅力を伝えられるようになっており、産直市は地域や県外から訪れる人の交流の拠点として、外国人も含めて賑わっています。
- ◆ 県産農林水産物・食品の海外輸出が飛躍的に伸び、アジアから欧米まで幅広く定着し、「ハラールマーケット」において、「徳島生まれのハラール商品」が輝きを放っているなど、「海外輸出」が新たな「成長エンジン」として、本県農林水産業を牽引する役割を果たしています。（再掲）
- ◆ 「徳島大学・生物資源産業学部（仮称）」との連携により、県下各地で新たな農林水産業ビジネスが展開され、地域が活性化しています。
- ◆ アグリベンチャーの創出や、新たな商品の開発・生産システムの導入、農工商連携など地域の多様な事業者によるアグリビジネスの促進により、6次産業化が飛躍的に進展しています。（再掲）

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「農林水産業のもうかる成長産業化の実現」を加速するため、「トップブランドへの挑戦」、「東京一極集中への挑戦」、「産地構造改革への挑戦」及び「サポート体制構築への挑戦」に係る施策を展開します。
- ◎ 農産物の増産及び高付加価値化に向け、農林水産総合技術支援センターを核として、大学民間事業者との連携により、ブランド産地の強化とともに、新たな品種や技術の開発・実用化を推進します。また、県内各地で「ブランド産地化」を促進するため、農地の有効利用や耕作放棄地の解消、農業基盤・生産施設の整備を推進します。（再掲）
- ◎ 本県各地の特性や資源を活かした地域ブランドの創出に加え、地産地消協力店制度の拡充や産直市の機能強化による交流の拠点づくりを図ります。
- ◎ 県産農林水産物や食品の需要拡大に向け、輸出国・輸出品目の重点化、輸出品目と輸出量の拡大や「輸出型産地形成」など、輸出の拡大を推進するとともに、「徳島大学・生物資源産業学部（仮称）」と連携し、6次産業化人材の育成、地場産業との連携による6次産業化ビジネスモデルの創生を支援します。（再掲）
- ◎ 農林水産業者と大学や観光・サービス業など民間事業者とのマッチングを進め、生産物の高付加価値化や農工商連携といった6次産業化をはじめとするベンチャー企業の創出・取組みを支援します。

IV 経済好循環とくしまの創造

5 新次元林業・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

生産倍増・消費拡大「新次元林業」

- ◆ 先進的な林業機械の導入、効率的な路網の整備及び高い技術力を有する担い手の育成により、林業の生産性が飛躍的に向上し、木材の生産量が倍増しています。
- ◆ 搬出間伐に加え、主伐による県産材の増産が進むとともに、主伐後の再造林も積極的に行われ、森林資源の循環利用と持続的な林業経営が行われています。
- ◆ 中・大規模建築物にも多くの県産材が使われるようになり、地場産業である木材産業が大きく発展しています。
- ◆ 木造建築物をはじめ、内装材や家具など、身のまわりのあらゆるところで県産材製品の利用が進み、製材端材や林地残材も木質バイオマス資源として無駄なく利用されています。
- ◆ 「徳島すぎ」がその品質の高さから市場での評価が高まり、オリンピック関連施設で利用されるとともに、首都圏やアジアをはじめとする海外へ販路が拡大されています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 県産材の増産に向け、本県地形に適した「主伐生産システム」を構築するとともに、高能率団地の設定、先進林業機械の導入及び効率的な路網の整備を進めます。（再掲）
- ◎ 高校生を対象にした林業教育の実施や、新規就業希望者に対する実践技術の早期習得など、新たな担い手の確保・育成を図るとともに、就業後は、初級者から上級者へとステップアップできるよう、体系的な技術力の向上に加え、優れた経営者の育成や起業化への支援を行います。（一部再掲）
- ◎ 主伐後の再造林を推進するため、コンテナ苗などを活用した低コスト造林技術の確立・普及を図るとともに、計画的に実施される再造林に対する支援を行います。
- ◎ 教育・福祉施設などの地域社会に必要な建築物への県産材の利用を進め、需要を増やすことによって、中山間地域における雇用の創出と定住化を進めます。
- ◎ 県産材の消費を拡大させるため、関係団体によるネットワークを構築し、県産材についての情報発信や木育活動を一元的に実施します。
- ◎ 県産材製品の品質向上や商品開発を進め、森林認証材の流通を促進し、オリンピック関連施設への利用や、海外輸出を推進するとともに、構造材だけでなく、床板等の内装材や建具まで、住宅に必要な県産材製品をまるごと輸出するシステムを構築します。

V 世界へはばたくとくしまの創造

1 にぎわいひろがる・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

交流ひろがる快適・交通ネットワーク

- ◆ 東京便、福岡便、札幌便に次ぐ国内主要都市への航空路線が開通されるとともに、国外との定期航空路線の開通やチャーター便の充実がなされており、LCC（格安航空会社）も就航するなど、県民の利便性が向上し、国内外から多くの観光客が徳島を訪れています。
- ◆ 四国横断自動車道（鳴門～阿南間）が開通し、南へと続く阿南安芸自動車道の整備促進により、都市間をはじめ、徳島阿波おどり空港や徳島小松島港など、拠点施設へのアクセスが飛躍的に向上し、経済・産業の発展や観光振興による活力ある地域づくりが進んでいます。
- ◆ 県内の高規格幹線道路、地域高規格道路及びその周辺道路の整備や機能の強化が進み、空港や港湾との連携によって多様な輸送形態が生まれ、物流コスト削減に伴う産業競争力の強化により企業立地が進むとともに、観光客が大幅に増加しています。
- ◆ 公共交通機関が利用者のニーズに応じて運行されるとともに、誰もが住み慣れた地域、住みたい地域で安心して快適に暮らすことができるよう、地域内を移動する手段が整備されています。
- ◆ 放射・環状道路などの整備が進むとともに、鉄道高架事業と徳島市のまちづくりが一体となって進み、交通の円滑化が図られ、都市部での交通渋滞が大幅に緩和されています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 国内外の新規路線開設に向け、空港機能の強化を図るとともに、チャーター便の実績を重ね、LCC就航も視野に入れながら、効果的なエアポートセールスを推進します。
- ◎ 高速交通ネットワークの充実を図るため、「徳島県道路整備利用促進基金」も活用し、四国横断自動車道（徳島JCT～阿南間）、阿南安芸自動車道及びその周辺道路の整備促進に取り組みます。（再掲）
- ◎ 公共交通機関利用促進のPRなどを通して、公共交通を地域に必要不可欠な社会基盤として、みんなで支えていくという意識を醸成し、維持・存続に努めます。
- ◎ 地域住民、市町村、NPO、交通事業者等の多様な関係者により、地域に根ざした交通体系のあり方を検討し、DMVなどの導入や地域の実情に応じた移動手段の確保に取り組みます。
- ◎ 徳島市中心部へ集まる交通量の分散や、交通容量の拡大を図る放射・環状道路などの道路網の整備を進めるとともに、踏切の除去によって道路交通の円滑化を図る鉄道高架事業を、徳島市のまちづくりと一体となって推進することにより、都市部での交通渋滞の解消や交流促進に努めます。

V 世界へはばたくとくしまの創造

1 にぎわいひろがる・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

おもてなしの心豊かな観光立県

- ◆ 県民が、自然、文化、体験、食など多くの宝にあふれた「TOKUSHIMA」に対する誇りと愛着を持ち、その魅力を国内のみならず世界に向け発信することにより、「TOKUSHIMA」の良さが広く認知され、多くの観光客が訪れています。
- ◆ 本県が世界に誇る「阿波おどり」を体感するため、国内外から多くの観光客が来県するとともに、県民も幼い頃から「阿波おどり」に親しむことにより、郷土愛や誇りを感じています。
- ◆ お接待の文化に培われた「おもてなしの心」に惹きつけられ、チャーター便などを活用して、国内外から多くの観光客が繰り返し訪れており、長期間にわたり滞在する観光客も増えています。
- ◆ 旅行会社において、「癒やし」、「食」など旅行者のニーズに応じた様々な旅行商品が提供されており、徳島を舞台にした映画やテレビドラマ等が数多く制作されたことで、県内の観光地を訪ねる大勢の観光客でにぎわっています。
- ◆ 国際大会、学会、スポーツ大会などが徳島で数多く開催され、海外からも多くの参加者が訪れており、宿泊、飲食、物産等への経済効果のみならず、国際化の進展や子どものスポーツ競技力向上に寄与するなど、多方面で地域の活性化が図られています。
- ◆ 「西洋の地中海」と並び称される、「東洋の瀬戸内海」の東の玄関口である徳島小松島港には、毎年多くの国内外クルーズ客船が寄港し、港のにぎわい創出や地域経済の活性化が図られています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 郷土の歴史や文化、自然などの観光資源に親しみ、ふれあうことを通じて、郷土に対する理解や関心を深め、「おもてなしの心」を持って観光客を受け入れることができるよう、徳島の将来の観光を担う人材育成を推進するとともに、観光資源の磨き上げ・掘り起こしなどを通じた観光地としての魅力向上や、SNS等の活用による広く国内外に向けた魅力発信に取り組みます。
- ◎ 国内外に「阿波おどり」の魅力を積極的にPRするとともに、県民が幼い頃から「阿波おどり」にふれる機会を創出して、ふるさと意識の醸成を図ります。
- ◎ 海外からのチャーター便誘致に加え、近隣府県等と連携し、充実を図った「おどる宝島！パスポート」の活用や、四国遍路等の文化や食といった本県ならではの観光資源やコンテンツを効果的に組み合わせるなど、国内外からの観光誘客を図ります。
- ◎ 旅行者や旅行会社のニーズに対応した旅のプランを作成し、効果的に旅行会社に売り込むとともに、徳島を舞台にした映画、テレビドラマ等のロケの誘致・支援に積極的に取り組みます。
- ◎ 拳県一致体制でのコンベンション情報の共有化・効果的な開催支援により、MICEの国内外からの誘致促進に加え、ニューツーリズムの推進を図るとともに、本県を訪れる外国人旅行者の利便性向上を図るため、多言語表記の推進やハラールへの対応など受入環境の充実を推進します。
- ◎ 徳島小松島港への国内外クルーズ客船の寄港を継続・拡大させるため、広域連携等による積極的な誘致活動や、受入態勢の充実強化に取り組みます。

V 世界へはばたくとくしまの創造

1 にぎわいひろがる・とくしまづくり③

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

本物を実感・体感！

- ◆ 徳島の豊かな自然や、新鮮で安全・安心な食材、「阿波おどり」や「阿波人形浄瑠璃」、「歩き遍路」といった伝統文化、農山漁村でのありのままの生活を活用した体験プログラムなど、質の高い内容が体験型観光の先進地として国内外から認知され、徳島を訪れる修学旅行生や家族客などでにぎわっています。
- ◆ 徳島を代表する選りすぐりの県産品である「とくしま特選ブランド」が国内のみならず、世界から「買いたい県産品」として認知・評価されています。
- ◆ 県南部圏域では、海・山・川が揃う「豊かな自然」や、農村舞台での阿波人形浄瑠璃をはじめとする「伝統文化」、魅力ある「食」などを活かして、体験型観光や新たな魅力ある観光ツアーを実施し、国内外から多くの人々が訪れ、地域が活性化しています。
- ◆ 県西部圏域では、美しい日本の原風景や独自の伝統文化など、魅力的な観光資源を体験できる環境が整備されており、国内外から選好される国際競争力の高い魅力ある観光地域として、外国人を含む多くの観光客でにぎわっています。
- ◆ 「鳴門の渦潮」に関する調査・研究が進んでおり、その自然的・文化的価値に対する理解が進み、国内外から多くの人々が訪れるとともに、世界遺産登録に向けた取組みが着々と進んでいます。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 農林水産業体験や郷土料理など、地域の日常生活と結びつく体験プログラムにより、地元の人々との交流が生まれる「体験型観光」をより一層推進するため、官民が連携した地域の主体的な取組みを支援するとともに、受入態勢の充実や、国内外の教育関係者に対する積極的なPR活動により、教育旅行の誘致拡大を図ります。
- ◎ 国内外において、アンテナショップを戦略的に展開し、県産品の展示・PR・販売や、消費者ニーズを把握して魅力ある県産品の開発・普及に努めるとともに、安全・安心で徳島ならではの魅力を持った、徳島を代表する優れた県産品を「とくしま特選ブランド」として登録拡大し、品質を追求していきます。
- ◎ 県南部圏域の団体や行政が参画した「推進体制」を構築し、「観光」、「食」、「アウトドアイベント」、「伝統文化」等様々な分野で、地域が一体となって企画・プロモーションを行い、さらなる交流人口の拡大を目指します。
- ◎ 国内外から選好される国際競争力の高い魅力ある観光地域を目指すため、県西部圏域が一体となって、剣山、祖谷のかずら橋、うだつの町並みなどの観光地や、伝統芸能、高地集落の暮らしなど、地域資源を活かした「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりに取り組むことにより、滞在交流型観光を促進します。
- ◎ 徳島・兵庫の産学民官が一体となって、世界遺産登録に向けて、「鳴門の渦潮」の自然的・文化的価値について学術的な検討を加えるとともに、その魅力を積極的に国内外に発信していきます。

V 世界へはばたくとくしまの創造

1 にぎわいひろがる・とくしまづくり④

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

世界に広がる「にぎわいの輪」

- ◆ アニメイメント「マチ★アソビ」が、国内のみならず、世界に通用する「地域ならではの」のアニメイメントとして、全国はもとより海外からの参加者でにぎわい、地域経済活性化の牽引役としての役割を果たしています。
- ◆ 「とくしまマラソン」が全国屈指の大会として国内外から注目を集め、海外から多くのランナーが参加するとともに、地域の特色を活かした「おもてなし」や「応援」が沿道で繰り広げられるなど、国際大会として盛り上がりを見せています。
- ◆ ウォーターフロントに立地する“アスティとくしま”をはじめ、豊かな自然環境や立地特性等に恵まれた観光交流施設や、“徳島ならではの体験”ができる様々な施設では、国内外から多くの人が集って徳島の魅力を満喫しており、にぎわいが周辺地域や県内全域へと広がっています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「マチ★アソビ」において、日本語がわからない外国人でも楽しめるイベントの充実や拡大を図るため、国内はもとより、全世界へ向け、プロモーションビデオやプロモーション活動、海外イベントと連携した情報発信を強化します。
- ◎ 「とくしまマラソン」を国際大会として実施し、海外からの参加者が楽しく安全に走れるよう、サイン類の多言語化などの受入態勢の充実を図るとともに、全世界へ向け、プロモーション活動やホームページ等により、「とくしまマラソン」の魅力を発信します。
- ◎ 魅力ある観光交流施設として、来場者のニーズに基づいた施設整備を行うとともに、観光交流施設間はもとより、体験型観光の拠点となりうる既存施設や、施設周辺地域の商店街といった観光資源との連携を図るなど、創意工夫を凝らして効果的に施設の魅力を発信し、来場者数の増加を目指します。

V 世界へはばたくとくしまの創造

2 世界とつながる・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

ひろがる国際交流・多文化共生

- ◆ 本県と友好交流を提携する多くの国や地域との間で、行政のみならず民間においても、観光や経済、学術、文化・スポーツなど幅広い分野で交流が行われ、世界中で「徳島」に親しみを持つ人々が増えています。
- ◆ 東京便、福岡便、札幌便に次ぐ国内主要都市への航空路線が開設されるとともに、国外との定期航空路線の開設やチャーター便の充実がなされており、LCC（格安航空会社）も就航するなど、県民の利便性が向上し、国内外から多くの観光客が徳島を訪れています。（再掲）
- ◆ 「西洋の地中海」と並び称される、「東洋の瀬戸内海」の東の玄関口である徳島小松島港には、毎年多くの国内外クルーズ客船が寄港し、港のにぎわい創出や地域経済の活性化が図られています。（再掲）
- ◆ 「多文化共生のまちづくり」が実現し、言語や文化の違いを踏まえた外国人への温かい「お接待の心」による対応などにより、外国人とのコミュニケーション能力が優れた県として、国内外から評価されています。
- ◆ 生活情報や観光情報をはじめとする様々な情報が多言語で提供されるとともに、語学力を備えた人材による支援が充実し、多くの外国人が仕事や留学目的で徳島に訪問・在住しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 友好交流提携を行っているブラジル・サンパウロ州、ドイツ・ニーダーザクセン州、中国・湖南省をはじめ、多くの国、地域と相互に利益を感じられる県レベルの友好交流の推進とともに、経済や観光、医療といった観点から、東アジアのみならず、東南アジアとの関係を重視し、さらなる交流拡大を進め、インバウンドの飛躍的増加を目指します。
- ◎ 国内外の新規路線開設に向け、空港機能の強化を図るとともに、チャーター便の実績を重ね、LCC就航も視野に入れながら、効果的なエアポートセールスを推進します。（再掲）
- ◎ 徳島小松島港への国内外クルーズ客船の寄港を継続・拡大させるため、広域連携等による積極的な誘致活動や、受入態勢の充実強化に取り組みます。（再掲）
- ◎ グローバル化の進展等、社会環境の変化に対応した国際化施策により、外国人が住みやすいまちづくり等を推進します。
- ◎ 徳島県国際交流協会や民間団体と連携し、小中学校や地域の国際交流事業に、在住外国人や外国での生活経験がある方々を派遣して、県民に幅広い外国との交流の機会を提供することで、子どもから大人まで、県民の国際感覚を醸成します。
- ◎ 県内の国際的ワンストップ情報受発信拠点である「とくしま国際戦略センター」を核として、多言語による案内サービスや生活支援のための相談窓口の充実、外国人支援にあたる各種ボランティアの育成を図るとともに、在住外国人の日本語能力の向上に資する施策を進めます。
- ◎ 公共施設や観光案内に関する情報の多言語化や、主要観光地等における案内標識の整備など、外国人が住みやすく、訪問しやすい徳島づくりを進めます。

V 世界へはばたくとくしまの創造

3 文化創造・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

人と地域がともに輝く「あわ文化」

- ◆ 「あわ文化」創造の努力がたゆみなく続けられ、阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどりなどの伝統文化や音楽をはじめとする芸術文化が息づく魅力ある地域づくりの実現とともに、すべての県民が、徳島ならではの文化資源の豊かさを再認識し、誇りを持って暮らせる社会を創造しています。
- ◆ 国内外の人々との「あわ文化」を通じた交流により、交流人口が増加しており、東京への一極集中を解消する課題解決先進県となっています。
- ◆ 本県の貴重な史跡・文化財が誇りある地域の資産として活用され、県内各地で特色ある「歴史・文化遺産を活かした地域づくり」が進んでいます。
- ◆ 文化の森総合公園各施設、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）、文学書道館、阿波十郎兵衛屋敷が、多様化・増加する県内外の生涯学習ニーズに応え、全国に誇れる生涯学習・文化・地域教育の拠点となっています。
- ◆ 世界遺産に相応しい文化資産として、四国遍路の文化財的価値が国内外に認知され、世界中から多くの人々が訪れるとともに、地域に根ざしたお接待や遍路道の保存活動が行われています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどり、ベートーヴェンの「第九」を中心に、芸術文化が息づくまちづくりを推進し、交流人口を増加させるとともに、東京への一極集中を解消させる先進モデルを創出します。
- ◎ 徳島に共感を持った音楽家で構成する「とくしま記念オーケストラ（とくしま国民文化祭記念管弦楽団）」によるクラシック音楽の上演をはじめ、一流芸術の実演などにより、優れた芸術文化が息づくまちづくりを推進します。
- ◎ 東京オリンピック・パラリンピックを契機として展開される文化プログラムに呼応し、国内外の人々を魅了する文化イベントを開催します。
- ◎ 地域の資産である史跡・文化財の活用による地域振興を図るとともに、文化に関する「人材バンク」、文化財ボランティアの登録を推進するほか、県内各地の埋蔵文化財をはじめとする様々な文化財を総合的に学習することができる体系・施設の構築等により、あわ文化教育の創造に取り組みます。
- ◎ 本県の文化活動の拠点となる、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）、文学書道館、阿波十郎兵衛屋敷について、関係団体と連携し、官民協力して、ソフト面の充実を図るなど魅力ある運営を行います。
- ◎ 文化の森総合公園の各施設において、文化や芸術に直接触れ合う機会の充実を図ります。鳥居龍蔵記念博物館においては、関連する研究機関等と連携して資料調査や共同研究を行うためのネットワークを形成します。
- ◎ 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の構成資産の文化財的価値付けを加速させ、その魅力を発信するとともに、産学民官が一体となって四国遍路文化の保存と継承を図ります。

V 世界へはばたくとくしまの創造

4 スポーツはばたく・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

みんなが誇れるスポーツ王国

- ◆ 県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する、全国に誇りうる「スポーツ王国とくしま」が実現しています。
- ◆ ジュニア層の育成・強化が次世代へと引き継がれ、競技スポーツの基盤となる高等学校の競技力が飛躍的に向上し、本県出身の選手が国際大会や全国大会で活躍しています。
- ◆ ヴォルティスがJ1で活躍するとともに、インディゴソックスが毎年NPBに選手を輩出する常勝球団として注目されるなど、両チームが徳島の誇りとなり、プロを目指す子どもたちや地元チームを応援する人たちで、スタジアム内外がにぎわいにあふれています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 行政、教育関係機関、スポーツ関係団体、企業等との連携・協働により、「スポーツ王国とくしま」の実現に向け、「徳島県スポーツ推進計画」を着実に推進します。
- ◎ 生涯スポーツ社会の実現や競技スポーツの競技力向上を図るための基盤整備の推進に加え、総合型地域スポーツクラブの創設・育成の支援や、2019年から3年連続で開催される国際スポーツ大会（ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスタースゲームズ）のキャンプ地・開催会場の誘致の推進により、県内のスポーツ機運を高め、誰もが楽しめる生涯スポーツの普及を図ります。
- ◎ ジュニアからの一貫指導体制づくりを進め、関係機関との事業連携や指導者等の人材活用及び県内企業、大学等との連携強化により、競技力の向上を図ります。
- ◎ 本県唯一のスポーツ科を有する鳴門渦潮高校において、充実したスポーツ・トレーニング環境を整えるとともに、スポーツ科学を研究している大学と連携し、科学的に分析する能力や知識の育成を図るなど、本県の競技力向上とスポーツ振興を図ります。
- ◎ プロスポーツの楽しさ・素晴らしさを、より多くの県民に知ってもらい、身近に感じてもらうことにより、スポーツ文化の振興やにぎわいの創出を図ります。

V 世界へはばたくとくしまの創造

5 創造的なまちが輝く・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

快適な公共交通と都市生活

- ◆ 少子高齢化が進む本県において、コンパクトで快適に暮らせる効率的な都市形成とともに、南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模自然災害を迎え撃つ「安全・安心なまちづくり」が推進されています。
- ◆ 高齢者、障がい者をはじめ、国籍等を問わず、誰もが自由に社会参加できる「ユニバーサルなまちづくり」が進み、安全・安心で快適な施設整備が促進されています。（再掲）
- ◆ 生活情報や観光情報をはじめとする様々な情報が多言語で提供されるとともに、語学力を備えた人材による支援が充実し、多くの外国人が仕事や留学目的で徳島に訪問・在住しています。（再掲）



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 都市計画基礎調査を実施し、関係市町・地域住民との協働により、地域の実情に応じた安全で快適に暮らせる効率的な都市形成の推進が図られるよう、都市計画区域マスタープランを見直します。
- ◎ 全ての人々が安全に安心して暮らせるよう、歩道等の整備や、事故危険箇所における交通安全対策を推進するとともに、誰もが利用しやすい公共交通機関を実現するため、利便性、快適性の向上を図ります。（再掲）
- ◎ 公共施設や観光案内に関する情報の多言語化や、主要観光地等における案内標識の整備など、外国人が住みやすく、訪問しやすい徳島づくりを進めます。（再掲）

V 世界へはばたくとくしまの創造

5 創造的なまちが輝く・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

人口減少社会に挑戦する個性豊かな地域社会

- ◆ 移住者等への受入態勢が整備され、豊かな自然環境の中で、U I J ターン者が地域の一員として活躍し、地域が活性化しています。
- ◆ 農山漁村地域の集落では、地域住民が文化的・経済的に豊かな生活を送り、農山漁村の有する多面的機能が発揮され、棚田等の美しい原風景、伝統・文化とともに継承されるとともに、都市住民、外国人があこがれ、活発に訪れる、活気と魅力あふれる農山漁村社会が形成されています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 移住者や移住希望者への相談にきめ細かな対応ができるよう、相談体制の整備をはじめ、ホームページ・メールマガジンによる情報発信、空き家情報の提供や移住交流フェアの実施、移住・交流体験の充実、サテライトオフィスの取組の推進など、多様な移住・交流施策を市町村や民間団体と連携して推進します。
- ◎ 農村地域における将来ビジョンを明確にし、その実現に向けて地域住民、行政が各々の役割に応じて行動する仕組みを構築することにより、地域のすてきな未来を創造する取組みを推進します。また、農山漁村での生活や農林漁業体験ができる「とくしま農林漁家民宿」や体験型交流施設などによる、都市住民や外国人との交流を積極的に推進します。
- ◎ 豊かで住みやすい農山漁村の創造に向け、生産基盤と生活環境基盤の一体的な整備や日本型直接支払を推進するとともに、地域住民活動の活性化を促進するリーダーの育成を支援し、農業・農村の多面的機能の発揮や美しい景観を維持・保全します。

V 世界へはばたくとくしまの創造

5 創造的なまちが輝く・とくしまづくり③

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

ICT利活用先進県・とくしまの実現

- ◆ 少子高齢化や人口減少、産業構造の変化、地球規模での環境問題、風水害や地震災害など本県が抱える様々な課題の解決に向けて、ICTを課題解決ツールとして積極的に利活用し、安全・安心で活力あふれる地域の創造が進んでいます。
- ◆ 「全県CATV網構想」として整備が開始された高速ブロードバンド網が、県内全域において光ファイバー化され、4K・8Kなど、大容量ネットワークを必要とするサービスの充実や、家電や車などが、IoT（モノのインターネット）として接続されるなど、より便利で快適な生活を営んでいます。
- ◆ マイナンバー制度の導入により、行政事務の効率化、プッシュ型行政サービスの充実が図られるとともに、災害時の被災者支援にも利活用されており、県民にとって利便性が高い公平・公正で、安全・安心な社会となっています。
- ◆ テレワークにより、場所と時間にとらわれない多様な働き方が浸透し、「ICT利活用先進県・とくしま」を拠点として、多様な人材がワーク・ライフ・バランスを実現しながら、いきいきと働ける社会となっています。
- ◆ 県内の主な施設や観光地ではWi-Fiが普通に使える、訪れた外国人等の観光客が簡単に情報収集や徳島の魅力発信をしており、国内外の人々とICTを利活用した交流が一層盛んになり、徳島県全体が、コミュニケーションあふれる地域となっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ ICTを課題解決ツールとして効果的・積極的に利活用するための指針である「ICTとくしま創造戦略」の着実な推進を図り、基本理念や目指すべき社会の実現を目指します。
- ◎ クリエイターやエンジニア等、クリエイティブな仕事に従事する人材の育成や、交流を図ることにより、新産業や新サービスを創出し、人と地域が元気な社会の実現を推進します。
- ◎ 行政情報の集約を行い、行政サービスの効率化を図るため、クラウドコンピューティング技術を活用し、マイナンバー制度に対応した自治体クラウドを推進します。
- ◎ 企業における在宅勤務や、Wi-Fiを活用したモバイルワークの導入などを推進し、生活全般の質の向上を目指すとともに、誰もがテレワークにより仕事ができるICT環境の実現を目指します。

V 世界へはばたくとくしまの創造

5 創造的なまちが輝く・とくしまづくり④

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

地域が主役の新しい社会

- ◆ 「関西」が持つ高いポテンシャルや、各地域が有する多様な個性・強みを世界に発信するとともに、「東京一極集中」を打破し、「関西」と「関東」の双方に政治、行政、経済の核が存在する「国土の双眼構造」への転換が進むなど「関西」地域全体が発展しています。また、「四国と近畿の結節点」である徳島は、ますます人や物の流れが活発になり、その影響は四国全体に及んでいます。さらに、都道府県や関西広域連合への国の事務・権限の移譲により、国と地方の役割分担が明確に進んでいます。
- ◆ 過疎地域においては、必要な生活基盤の整備はもとより、地域の実情に応じた、身近な生活交通や医療の確保、集落の維持活性化に向けた、生活に密着したソフト対策が重点的に実施され、住民が安心して、豊かに暮らしていける地域社会づくりが展開されています。
- ◆ 「課題解決先進県・徳島」からの実効性のある「処方箋」としての政策提言が、国の新たな制度や施策に反映され、地方がリードする地域の実情に即した「日本創生」が進んでいます。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「四国」と「近畿」の結節点である徳島の強みを最大限に活かし、関西における医療、防災、観光・文化、産業、環境分野など広域行政の取組みを徳島から先導します。
- ◎ 地方分権改革の突破口を開き、「国と地方の役割分担の見直し」、「国から地方への事務・権限移譲」など「平成の新しい国づくり」をリードするために、国への提言や要請を「全国知事会」や「四国知事会」、「関西広域連合」等から積極的に展開します。
- ◎ 「県過疎地域自立促進計画」に基づき、市町村との連携を図りながら、人口減少問題をはじめとする様々な課題を解決するため、地域の実情に応じた過疎対策を着実に推進します。
- ◎ 地方の創意工夫を盛り込んだ徳島ならではの「処方箋」が、「地方創生」から「日本創生」へとつながるよう、国に対する積極的な政策提言を実施します。

V 世界へはばたくとくしまの創造

5 創造的なまちが輝く・とくしまづくり⑤

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

◆ 不断の行財政改革と県民主役の県政

- ◆ 不断の行財政改革により、県を取り巻く厳しい財政状況を乗り越え、「課題解決先進県」として培ってきた政策の創造力や実行力を新たな行政課題の解決に発揮し、「県民目線に立った県政運営」を推進するとともに、日本をリードしています。
- ◆ 財政構造の弾力性の確保や公債費水準の適正化など、財政構造改革の成果が現れてきており、財政の健全性を維持しながら、喫緊の課題にも着実に対応しています。
- ◆ 県政に関する県民の知る権利が尊重され、情報公開の総合的な推進により、県民参加による公正で開かれた県政が実現しています。また、ICTを駆使した事務手続きの簡素化により、個々の県民ニーズに対応した行政サービスを迅速に行えるようになっていきます。
- ◆ 県民をはじめ、国内外の方との双方向コミュニケーションが活発に行われ、即時性に富んだ積極的な情報発信により、本県の知名度の向上や交流の活性化が図られています。また、分野・領域を超えたオープンデータの融合・活用等により、「新たな価値」が創造され、地域の課題解決や経済の活性化につながるるとともに、行政の透明性・信頼性が向上しています。
- ◆ 東京オリンピック・パラリンピックや関西ワールドマスタースゲームズの開催を契機に、国際的な視点を備えた職員が、徳島県の魅力や強みを発信するとともに「創造的実行力」を発揮し、知恵と工夫を凝らした施策を積極的に展開しています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 新たな政策課題の解決に向けて、「戦略的な行財政改革」に取り組み、「新時代を切り拓く処方箋」を創るため、縦割りの弊害を生まない「連携強化型の組織体制」への進化をはじめ、これまでの「改革の歩み」を止めることなく、その着実な推進を図ります。
- ◎ 公債費について、本県の財政規模に見合った妥当な水準とするため、今後も県債の発行額を抑制し、実質的な地方交付税である臨時財政対策債を除いた県債残高、県民一人当たりの県債残高を減少させます。
- ◎ 時代に即した広報媒体を効果的に活用して、積極的かつきめ細やかな情報発信を行うとともに、各種媒体や知事との対話等を通じていただいた提言を積極的に県政に反映していきます。
- ◎ 市町村との連携や県民・企業等データ利用者へのニーズへの対応など、「オープンデータポータルサイト」を基盤としたデータ利活用環境の整備・充実を図ります。
- ◎ 職員一人ひとりの、徳島の強みや魅力を国内外への発信力強化のため、「地域の資産や文化を知り」、「語学力を強化する」研修の充実を図ります。また、南海トラフ巨大地震を迎え撃つための「防災人財」や、「世界を見据えた人財」を戦略的に養成するため、国や海外の機関等への派遣研修を行い、未来の徳島を担う「人財」育成を強力に推進します。

